



<同志社人が母校を誇りに思える情報>

「同志社ファン・レポート」

Ver.2-007 号

【2018.6 月・同志社人】 及び 「同志社ファン」 の意味



目 次

【2018.6 月・同志社人】

1. 内藤正典教授
2. 佐藤優氏
3. 小山大介教授 理工学部電気工学科
4. 【新社長】池内昭彦氏
5. 平岡成介氏
6. 荻田愛さん

<再掲> 「同志社ファン」 の意味について

本 文

「2018.6月の同志社人」

期せずして、5月と同じ方が先ず、登場する。

1. 内藤正典氏(同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授)

6月14日の朝日新聞夕刊「ハラールをたどって」の記事に教授のお名前が登場する。

「イスラム教徒は、みんな戒律を固く守って生きている」と思い込みがちだが、それは「おかしいでしょう」と内藤正典教授が問いかける。その誤解は「私たちがムスリムの実像を知らないから。欧米経由の偏った情報しか入ってこなかったからです」と言われる。

例えば、ムスリムが、何を食べ、何を食べないか。何をハラール、つまりイスラム法で「許されたもの」と考えるか。実は、出身地により人により、様々だとのこと。だからこのシリーズのサブタイトルの意味が「19億人のムスリムがいたら、19億通りの生き方がある。」なのだ。このような実態をズバリ語るのが、内藤教授である。

加えて、特記すべきは、内藤先生の特徴は、グローバルな人脈である。6年前に同志社大学が京都で開いた国際会議に、アフガニスタン政権と反政府武装勢力タリバーンの代表を招いたことがある。アフガニスタン政権の当時の大統領顧問スタネクザイ氏と反政府武装勢力タリバーン幹部らが出席し、夜には鍋を一緒に囲んだという。この異例の顔合わせが可能になったのは内藤教授の幅広い人脈に因るものである。

新聞記事掲載日の翌日、6月15日は、イスラム教の祝日で、ラマダーンの終了を祝う大祭の日である。日本でいうところのハレの日に近いもので、新調した衣装を着てモスクに、街に繰り出す。



正装の子ども(ホテルの食堂にて)



ムスリムはモスクに続々と集まる。

撮影:多田 直彦(6/15 クアラルンプールにて)

.....
2. 佐藤優さん (同志社大学特別顧問)

6月5日の毎日新聞(地方版)は次のように報じていた。

同志社大特別顧問に卒業生で作家の佐藤優さん(58)が就任することになり、5月29日、東京都中央区の同大東京サテライト・キャンパスで任命式が行われた。

佐藤さんは東京在住で現在、同大神学部客員教授。東京担当の特別顧問として情報発信を担うことになった。

松岡敬学長は「佐藤優氏の人的なネットワークを活用し、首都圏での認知度やブランド力を高めたい」と期待を寄せた。

その数日前の5月27日に開催された東京校友会「春の集い」で松岡学長から「近々、佐藤優さんとお目にかかる」とお伺いしたので、私は「銀座百点」の佐藤さんのエッセー全文を松岡学長にメールでお届けした。

任命式は5月29日に東京キャンパスで行われ、その日、学長主催のメディア懇談会の中で居合わせたメディア関係者に特別顧問のことを公開された。

佐藤優さんは、就任にあたって「外務省解任の辞令以来、この手のことはすべて断ってきたが、母校からの依頼とあって引き受けた。2020年の高大接続改革では各大学の入試の作問力が試されるが、作問力＝教育力である。7月には松岡学長との教育改革の対談本を出す予定だが、同志社には優れた教育力があり、今後、同志社教育のすばらしさをどんどん発信していきたい」と力強い所信表明をされました。

同志社大学としては「VISION2025」の「ブランド力の向上」に結びつき、結果が期待される。

3 . 小山大介教授 理工学部電気工学科

6/4 付日本経済新聞(朝刊)で次のように報じられていた。概要は、同志社大学の小山大介教授らは厚さ 1.5 ミリメートルの極薄の液晶レンズを試作した。その特徴は、超音波を使い焦点距離を自在に調節できること。振動に強く故障しにくいこと。従って、スマートフォンのカメラや車載カメラなどに応用できるという。

現在のスマホのカメラは厚さ約4ミリメートル。それは4～5枚のレンズを重ねており、かつ可動部の薄型化が難しく、そのためカメラ部分が飛び出していた。このレンズに置き換えれば、カメラを大幅に薄くできる。実用化は2年後を目指す。なお、小山教授は「厚さ 0.1 ミリメートルの超薄型レンズも作製可能。可動部がないので振動に強い」と説明する。

同志社大学はこの分野でも活躍が期待される。

4. 【新社長】池内昭彦氏 福井放送

福井放送(FBC)は4日の決算取締役会で、社長の宮腰義博氏が非常勤の取締役相談役になり、後任の社長には専務で経営管理本部長の池内昭彦氏が就く人事を内定した。27日の株主総会・取締役会で正式に決まる。

池内氏は64歳。1977年に入社し、大阪支社長や東京支社長などを歴任し、昨年6月から専務。同志社大卒

5. 平岡成介氏・平成9年(1997年)商学部卒 アメリカンフットボール部所属

夏の甲子園の3代目の大優勝旗を制作の記事が6月28日のデジタル朝日に掲載された。

平岡成介氏はこの大優勝旗の制作を請け負った京都の老舗旗店「平岡旗製造」の専務さん。京都の職人の技を集めたプロジェクトの、監督役を務めた。

この旗は深紅に染めた正絹糸と本金糸を使い、刺繍をせずに「優勝」の文字や絵柄も含めすべて手織りで仕上げられた。染め、織り、旗房などの伝統工芸士をはじめ12工程で約20人の職人が関わっている。

平岡成介氏は元球児で中学から野球部に入り、同志社高校では左翼を守った。「家業は日清、日露戦争の国旗需要で大きくなったと聞いています。私は人々の歓喜の中にある旗をつくっていきたい」と語った。大優勝旗だけでなく、56の地方大会の優勝旗の新調も担当した。

.....

6. 苅田愛氏(かんだ・あい) 文学部卒業

ユニクロから宇部市に派遣された政策広報統括官。

総務省は、「地域おこし企業人交流プログラム」を実施している。それは大都市で勤務する企業人を自治体に派遣して地域の活性化につなげようというプログラム。

「ユニクロ」を運営するファーストリテイリング東京本部から宇部市に派遣された。

1975年、茨城県日立市生まれ。同志社大学文学部卒業。大手PR会社で外資系企業・団体の広報支援およびコンサルティング業務に携わり、2014年にファーストリテイリングに転職。18年2月から宇部市政策広報統括官に着任。

.....

<再掲> 「同志社ファン」の意味について

いつも「同志社ファン・レポート」をお読みいただき、ありがとうございます。

また、レポートのネーミングについても色々ご提案いただき、感謝しています。ご提案の中で、「同志社ファン」の意味についてのご意見が多くございました。

そこで、今日は「同志社ファン」の意味についてご説明させていただきます。

ところで、皆さんは、同志社大学の卒業生ですが、新島襄を愛し、同志社が好きだったり、同志社に恩返ししたいという「同志社ファン」なのでしょうか？

私の願いは、一人でも多くの卒業生が、「同志社ファン」になっていただくことです。その願いは、皆さんの母校愛によって、母校が良くなることを願っているからです。

それは、精神的な「思い」ではなく、学校に必要な施設や人物が充実することです。それは、卒業生が中心の寄付によって実現すると考えています。

私は、寄付を惜しまない「同志社ファン」になっていただくために、まず、同志社や新島襄について良く知っていただくこと、と考えました。

至らない内容ですが「同志社ファン・レポート」を月に二回、お届けしています。

お金の使い方には色々ございますが、母校へ寄付した後の満足感は、「とても爽やかで、チョッピリ、自己満足が得られる」と伺っています。

寄付で貴方の賢明な意志を表現し、今後の人生を胸を張ってお過ごし下さい。

*既に実行しておられる方には、重複し失礼しました。

できましたらご寄付なさいました想いや感想をお寄せ下さい。

同志社ファンを増やす会 主幹 多田 直彦

なお、「同志社ファン・レポート」がご迷惑な方はその旨、ご連絡下さい。中止いたします。

「同志社ファン・レポート」のバックナンバーは同志社東京校友会のご厚意で次で閲覧で

きます。 <http://www.doshisha-tokyo-alumni.jp/>



サークル活動



同志社ファンを増やす会